

別紙2 令和8年度 自己評価書 作成日: 令和8年8月31日 国分寺市立第五小学校 校長名 齋藤 晃

教育目標:	○元気な子 ○やりとげる子 ◎考える子 ○思いやりのある子
めざす学校像:	保護者や地域から信頼される学校
めざす児童像:	子どもたちが主体的に学び活動する学校
めざす教師像:	教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
豊かに表現する力を育てる教育	考え、豊かに表現し、実践できる力の育成	情報を活用した主体的・対話的な学びの実現	○課題解決にGIGA端末や、既習事項、新聞、図書資料等情報を活用し、主体的・対話的な学びを実現する授業改善を図る。 ○「国分寺学」や各教科で協働的な学びや、校内・地域へ発信等、豊かに表現する学習活動の充実を図る。	3		4		教員評価では「価値づけや称賛」「めあてやまとめの明示」が高く、学習の土台づくりは進んでいる。一方で、「学びを児童に委ねる工夫」や「協働的な学び・発表の場」の実践がやや弱く、主体的・対話的な学びが十分でない状況が見られる。児童・保護者の評価は概ね高いが、GIGA端末活用は家庭に伝わりにくい面がある。	めあて・まとめの共有を継続しつつ、「学びを児童に委ねる工夫」や「協働的な学び・発表の場」を意図的に取り入れた授業を推進し、児童が主体的に学び、対話を通して考えを深める授業を充実させる。GIGA端末の活用場面や成果を学年だより・ブログ等で適宜発信する。
		基礎学力の確実な定着 体力の向上	○算数習熟度別指導や東京ベーシックドリルの活用を通して、個別最適な学び方や既習事項等基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○体力調査の結果をもとに、体育指導の改善や外遊びの工夫を推進し、運動の楽しさを味わわせる。	3		4		教員評価では「基礎的・基本的な内容の定着」「体育指導の改善や外遊びの推進」は高い。一方で、「読書の推進や学校図書館の活用」はやや低く、取り組みに差がある。児童は、「学習のしたことが分かる」「体を動かすことが楽しい」「本を読むことが好き」という回答が多い。保護者評価からも概ね良好な評価を得ているが、読書活動の充実を求める声がある。□	習熟度別指導や東京ベーシックドリルを生かし、つまずきのある児童への個別支援を継続する。体育では校内研究の成果を共有し、運動に親しむ機会を確保する。読書は朝読書・おすすめ本紹介・図書室活用の工夫など、全学年で共通実践を進める。
習や活動の発達を促す教育	保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切にする子どもの育成	地域・保護者の人材、教育材を生かした、郷土に根差す学習活動の開発	○コミュニティ・スクール協議会等の機能を生かし「国分寺学」を中心に、地域と連携を深める教育活動を継続・発展する。 ○「国分寺学」の推進や中学生ボランティア等、一中学区で小・中連携の取組を行う。	1		4		児童・保護者ともに地域学習への期待は高いが、教員評価では「地域人材の活用」「国分寺学の趣旨に沿った学習活動や成果発信」が低めで、実践の継続性や発信面に課題がある。児童の「地域についてもっと知りたい」という意識も、さらに高める余地がある。□	各学年で地域人材・地域教材を生かす年間計画を早めに整理し、実施時期を見通して準備する。体験後には発表会・掲示・学校公開・ブログ等で成果を発信し、学びを振り返る場を設定する。
		学校の教育活動について保護者・地域に理解を得る。	○保護者・地域からの情報や学校の課題を、コミュニティ・スクール協議会で検討し、内容を保護者・地域へ発信する。 ○学校からの発信方法について、紙、メール、ブログのよさを組み合わせ、分かりやすく積極的な情報発信を行う。	2		4		児童は地域や保護者の協力をよく認識しており、家庭でも学校の話がされている。保護者は情報発信自体は評価している一方で、コミュニティ・スクールのよさについては「分からない」という回答も目立つ。教員側でも、コミュニティ・スクールの理解や捉え方に差が見られる。□	コミュニティ・スクールの目的や役割を教職員間で再確認し、教育活動と結び付けた具体例を共有する。保護者向けには紙・メール・ブログ等、目的に合わせた活用の仕方を整理し、早めの周知と直前リマインドを組み合わせで分かりやすく伝える。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育の充実	子どもが安心して楽しく学校に通うことができる。子どもが自分や友達、一人一人を大切にできる。	○特別支援や、スタートカリキュラムの理念を生かし、一人一人の多様性を認めた指導を行う。 ○いじめの未然防止、早期発見・解決に努める。 ○学校教育全体を通して道徳教育に取り組み、授業のキーワードを校内に掲示する。	4		4		児童・保護者・教員のいずれも肯定的回答が非常に高く、安心感や自他を大切にする態度の育成は概ね順調に進んでいる。温かい学級づくりや道徳教育、組織的な児童理解の成果が表れていると考えられる。一方で、防犯面への不安を示す保護者意見も一部見られた。□	今後も日常적인見取りと早期対応を丁寧に行い、いじめの未然防止と多様性を認める学級経営を継続する。道徳や学級活動で自他を大切にする価値を繰り返し扱うとともに、防犯面の見直しも進める。
		自尊感情、自己肯定感の向上 学校や学級への帰属意識の高揚	○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整える。 ○縦割り班活動等の充実を図り、活動を通して異学年と交流を深め、他を思いやる気持ちを育む。	4		4		教員評価、児童評価ともに高く、自己肯定感や所属感を育てる取組は概ね順調である。特に、異学年交流やよさを認める指導は高評価である。一方で、保護者意見には挨拶や言葉遣いに関する課題も見られ、日常の言語環境には改善の余地がある。	学年・学校全体で共通の挨拶や言葉遣いの指導方針をもち、教職員が手本を示しながら継続的に声かけを行う。児童のよさを可視化して認め合う場を増やし、縦割り班や委員会活動では交流のめあてを明確にする。
働きがいを感じ元気づける教育	教育職員の業務や教育の質の向上のための時間的余裕を創出する。 ワーク・ライフ・バランスの充実や働きがい等を感じられる職場環境の改善を図る。	1箇所月時間外在校等時間が45時間以下の割合を減らす。 ストレスチェックにおける高ストレス者の割合を減少させる。	○高学年教科担任制の授業の実施。 ○校務分掌に基づくとともに、担任の持ち時数に配慮した講師配置の実現。 ○専科副担任の仕事内容の明確化。 ○校務分掌組織の整理と明示、職層に応じた役割分担の実現。 ○教職員も働き方の改善策を考えるとともに、働き方改革の施策の有効性について評価する。	2		4		教科担任制、講師配置、午後授業カット等は一定の効果が認められている。一方で、「専科副担任の仕事内容明確化」「校務分掌組織図の整理・明示」は低く、役割分担や運用方法を明確にする必要がある。自由記述でも、会議の長時間化、業務量の偏り等の意見があった。	年度後半に向けて、役割分担と業務範囲を具体的に確認し、専科・担任・校務分掌の連携方法を明確にする。会議は終了時刻を設定した上で、事前共有により議題を精選する。また、文書作成や提出物整理の効率化、外部人材の活用を進め、職層に応じた業務負担の平準化の一層の推進を図る。